

IV-41

商業地街路繁華街の記号論的解釈

東北大学 学生員 ○日高 良文
東北大学 正会員 平野 勝也

1. はじめに

店舗の構成要素は様々であり、其々性格は異なる。同じ業種である飲食系店舗でも落ち着いた雰囲気のお店や忙しい雰囲気の店も存在する。一方で違った業種にも関わらず、似た雰囲気を感じる店舗が存在する事もある。

既存の店舗のイメージ構造を扱った研究として、福井ら¹⁾は商品情報伝達形式に着目し、店舗の伝達情報を記号別に分類した。またそれを基に街路へと拡張して説明している。

また、平野²⁾は、認知科学の知見からイメージ形成の作業仮説を想定している。（図-1）。このフレームでは、イメージの各段階での意味を仮定し、パターン照合の動機付けからパターン照合指標の仮説を提案している。その中で場の定位を論理・直観記号の種類とその情報量によって定量的に表している。

これらの研究は、記号論のフレーム³⁾を用いて店舗は情報を発信して受け手はその情報を受け取っていることを説明している。しかし、受け手は発信された情報をコードを通して解釈することで初めて情報として受信される。この事は、記号論のフレームでは発信される情報を受け手はコードを通して解釈するものとしている。商業地街路繁華街を対象に記号論のフレーム⁴⁾を用いて、文化的定位は記号の関係のシステムとしてのコードによって定性的に表されることを目的としている。

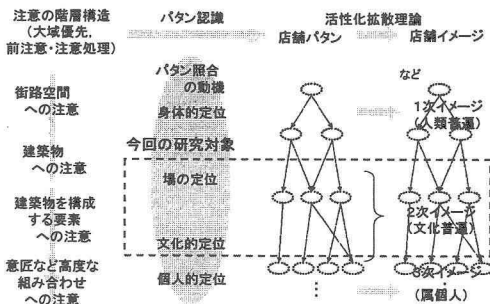


図-1 イメージ形成作業仮説

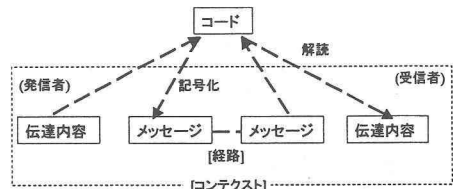


図-2 情報伝達のモデル

2. コードについて

門内ら²⁾は以下の3つのコードが重層的に組み込まれる事で街並みが形成されていると述べている。

- ・ 統治論的コード
- ・ 意味論的コード
- ・ 実用論的コード

ここでいう統治論的コードとは、形態、色彩等の表現に関わるコードを意味し、意味論的コードは機能や意味に関わるコードを意味し、実用論的コードは文化的・社会的・歴史的コンテキストに関わるコードを意味している。

3. ケーススタディ

対象地は仙台市の商業地街路繁華街であるクリスロードを対象とした。

3.1 店舗分類

今回、店舗とコードとの関係を見るため、店舗分類を行う。分類モデルとしては、平野²⁾が用いた直観記号と論理記号を用いて内部活動情報を表し、店舗の性格分類を定性的に行う。

以下の写真は主な店舗の代表例である。



写真-1 物販情報抑制型



写真-2 物販直観特化型



写真-3 飲食論理特化型

3.2 コードとの関係

写真-1 の店舗は物販系業種で直観・論理記号が共に少ない店舗である。ここでは、受信者の文化的・社会的・歴史的コンテクストによって影響を受けるものと考えられるので図-3 に見られるように実用論的コードが特化している。写真-2 の店舗は直観・論理記号が共に多い店舗である。図-3 に見られるように形態、色彩等の表現に関わるコードが特化しているものと思われる。写真-3 の店舗は論理記号が多く、直観記号が少ない店舗である。ここでは屋号と直接関係のない論理記号が占めていることにより、機能や意味に関わるコードである意味論的コードが特化しているものと思われる。このように、論理記号、直観記号を分解してコードを用いて解釈することで文化的定位によって店舗を解釈できるものと思われる。またこれらのコードと直観記号、論理記号の組み合わせにより身体的定位、場の定位、文化的定位を組み合わせた新たな記号論的解釈が可能であると思われる。

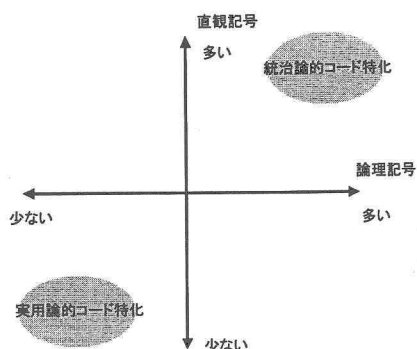


図-3 物販系店舗とコードの関係

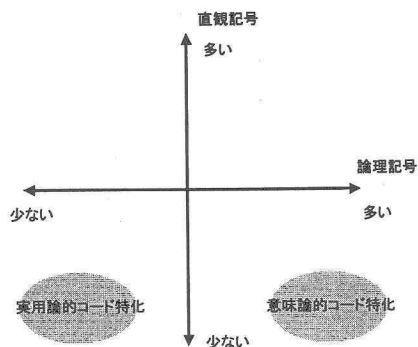


図-4 飲食系店舗とコードの関係

4. 結論

店舗のコードは実際は重層的に組み込まれているが、店舗の内部活動情報との関係性があることは分かる。今後は、各コード間の区別を明確にしていき、この3つのコードで文化的定位が解釈されることを定量的に行いたい。

参考文献

- 1) 福井恒明, 篠原修, 平野勝也: 商品情報伝達形式から見た商業地の街並の景観特性, 土木計画学研究・論文集 No.13, pp461-468, 1996
- 2) 平野勝也: 「街並みメッセージ論とその商業地への適用」東京大学学位論文, 1999
- 3) 門内輝行, 原広司, 及川清昭, 荻谷哲朗: 家並みの記号論的分析—その4. 記号の配列—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1981
- 4) 池上嘉彦: 記号論への招待, 岩波新書, 1984